



我々が科学的根拠に基づいた「健康を考える観光」の実践モデルとしてまず行ったのが、スギ花粉疎開ツアーである。北海道は道南を除いては、スギが生息していない。スギ花粉に悩まされている人が花粉症の時期に訪れる人が、間違いなく症状は緩和される。スギがないということが北海道観光のオンリーワンになり得るのである。

鼻がつまり、頭痛、くしゃみ、鼻水、ご飯はおいしく食べられない、おまけに夜には2〜3時間ごとに苦しくて目が覚める。そんな人たちが、北海道を訪れば、深呼吸しておいしい空気を吸いながらアレルギー発症の仕組みを知り、免疫バランス改善に良い食材で作ったおいしいご飯が食べられ、温泉につかり、ぐっすり眠れる。その効果に感動して花粉症疎開ツアーを契機に上士幌町に移住第1号も出たほどである。

本物の「健康を考える観光」を実践するために科学的、医学的基盤を構築する必要がある。インフォームドコンセントや個人情報管理を徹底しなければ健康改善に

関するデータをとることができないからである。そのためには産学官連携体制が重要であり、

今回は、上士幌町、竹中貢町長を初めとする行政と観光関連企業、医療機関、検査会社、北大との産学官連携事業で行った。

上士幌町のイムノリゾート構想によって、観光客の採血、健康診断などを行い、観光の前後で、

ストレスが如何に緩和され、免疫バランスが改善したかなどをチェックできる仕組みが構築された。また、観光に参加しながら自分のアレルギーの原因物質や、メタボリックシンドロームの進行度などについても気軽に検査してもらえる。

今後はイムノリゾート構想を上士幌を中心とした十勝地区の他、札幌、夕張、北見などを拠点として全道展開し、北海道を「健康を考える観光」の拠点にしていきたいと考えている。

さて、地球温暖化対策を重要課題とした北海道洞爺湖サミットが来年開催される。これを契機に北海道観光をどう創造し、どのように道経済の活性化に繋げるかを早急に考える必要がある。

北海道を世界に発信できる機会を型どりの式典で終わらせてはもったいない。北海道の宝物は、やはり綺麗な自然と美味しい食べ物である。この宝物を守るために、北海道は温暖化対策とリンクさせて如何に「食」の安心

安全を担保させるために、「食、健康、環境、医療」を結びつけた「健康を考える観光」のインフラ整備に努力しているかをアピールするのの一つの戦略になり得ると思う。

先日、これが本当にアスパラガスかと思うような直径3cm近くもある太くて甘い乙部産アスパラを食する機会を得た。北海道の冬は寒くて厳しい。しかし、その寒さ故に病害虫が少なく肥えた土壌が広がり、農業を散布しなくともおいしい春野菜が収穫できるとい

う。他地域と差別化ができるこの自然の恵みは環境の保全によって北海道の春の匂もなくなってしまう可能性がある。

世界中の第一線のインテリたちは北海道の風景、あるいは、美味しい食べ物に、間違いなく「terrific, beautiful, fantastic」などの形容詞を使い北海道を賛美するであろう！

しかし、そういう官能的側面からの感動だけでなく、どこかの地域でも「あるある的」にアピールできる。だが、もし、小学生らがイムノリゾート構想の原点として大切にしている、科学的根拠に基づいたデータをもつて、北海道の環境の綺麗さ、食材の美味しさ、安

全性、機能性等を発信することができたら、どれ程のインパクトをもって世界の人々にアピールできるか計り知れない。

昨年、上士幌町の中学生は、イムノリゾート構想の一環で、修学旅行で東京の空気を持ち帰り、東京と上士幌町の大気汚染度(NO₂量)の比較をした。その結果、東京は0.0450ppm、上士幌は0.0027ppm

で自分たちの住んでいる田舎が綺麗であることを科学的データから確認、感動できた。

来年のサミットでは、洞爺湖周辺は勿論、北海道、日本、世界の主要都市の環境汚染状況を数値で示し、かつトレーサビリティや機能性などが科学的に示された健康に良い食材を一流シェフがサーブすることができれば、北海道は「温暖化対

策」とリンクして「食、健康、環境」を科学的に考える素晴らしい土地であることを世界にアピールでき、観光の推進に繋がる。

また、北海道が科学的根拠に基づいた「健康を考える観光」を推進し、花粉症疎開ツアー等の体内環境(免疫バランス)改善に関する対策を実践していることを示すことは、温暖化による光化学

スモッグ等が要因として起こり始めている「アレルギー」や新興感染症増加で示される体内環境の破壊」が「温暖化対策」と共に将来のサミット課題になり得ることを主張するための優位的根拠になるかもしれない。

(北海道大学遺伝子病制御研究所・免疫制御分野教授、NPOイムノサポーターセンター理事長)

北海道の「健康を考える観光」拠点づくりを目指したイムノリゾート構想

—北海道洞爺湖サミットで科学的根拠に基づいた健康に良い「食」「環境」のアピールを！—

西村 孝司



安全を担保させるために、「食、健康、環境、医療」を結びつけた「健康を考える観光」のインフラ整備に努力しているかをアピールするのの一つの戦略になり得ると思う。

先日、これが本当にアスパラガスかと思うような直径3cm近くもある太くて甘い乙部産アスパラを食する機会を得た。北海道の冬は寒くて厳しい。しかし、その寒さ故に病害虫が少なく肥えた土壌が広がり、農業を散布しなくともおいしい春野菜が収穫できるとい

う。他地域と差別化ができるこの自然の恵みは環境の保全によって北海道の春の匂もなくなってしまう可能性がある。

世界中の第一線のインテリたちは北海道の風景、あるいは、美味しい食べ物に、間違いなく「terrific, beautiful, fantastic」などの形容詞を使い北海道を賛美するであろう！

しかし、そういう官能的側面からの感動だけでなく、どこかの地域でも「あるある的」にアピールできる。だが、もし、小学生らがイムノリゾート構想の原点として大切にしている、科学的根拠に基づいたデータをもつて、北海道の環境の綺麗さ、食材の美味しさ、安

全性、機能性等を発信することができたら、どれ程のインパクトをもって世界の人々にアピールできるか計り知れない。

昨年、上士幌町の中学生は、イムノリゾート構想の一環で、修学旅行で東京の空気を持ち帰り、東京と上士幌町の大気汚染度(NO₂量)の比較をした。その結果、東京は0.0450ppm、上士幌は0.0027ppm

で自分たちの住んでいる田舎が綺麗であることを科学的データから確認、感動できた。

地域の取組 白老町

③白老町

「ポロトコタンの夜」は、白老のアイヌ民族に伝わる伝統的な「祈り」、

「歌」、「踊り」、「食文化」を、夜の幻想的な雰囲気の中で体験してもらうためにコンパクトなパフォーマンスとして組み合わせたアイヌ民族博物館の夜の特別プログラムです。

平成十五年度から毎年、試行錯誤を重ねながら実施してきましたが、十八年度からは、札幌からの無料送迎バスを運行し、白老牛の食事と温泉入浴をセットにした日帰りプログラムとして、白老をトータルで楽しんでもらうことで成功を収めました。

十九年度はそれをさらにバージョンアップして

実施する予定です。午後無料送迎バスで札幌を出発し、まず虎杖浜温泉でゆっくり温泉に浸かっていたいただきます。その後、水産加工品のお店や工場が軒を連ねる海産物ロードでお買い物や、白老牛レストランでの夕食、そして夜は、アイヌ民族博物館で館内の見学

とにありません。単発でそれぞれの資源を紹介することは簡単ですが、ただ紹介するだけでは、旅行者のみならずが確実に訪れてくれるかどうかはわかりません。アクセスの確保、ルートを組み立て、受入態勢整備をする上で、準備を整え、情報発信、魅力ある商品と価格提示ができれば、「行ってみたい」ということになり

5年目を迎える夏の夜のカルチャープログラム

「ポロトコタンの夜2007」

うか」と

とメインプログラムである「ポロトコタンの夜」を鑑賞していただきます。

このツアーの大きな目的は、アイヌ文化のすばらしさを、夜をキーワードに新たな演出を加えて、違った角度から理解し、楽しんでいただくことも

「ポロトコタンの夜」をきっかけに町内を周遊し、楽しいと思える内容か、あるいは企画者自身がこれには楽しいと思っているのか、その視点を大事にして活動しています。

(白老観光協会)

とにありません。単発でそれぞれの資源を紹介することは簡単ですが、ただ紹介するだけでは、旅行者のみならずが確実に訪れてくれるかどうかはわかりません。アクセスの確保、ルートを組み立て、受入態勢整備をする上で、準備を整え、情報発信、魅力ある商品と価格提示ができれば、「行ってみたい」ということになり

実施する予定です。午後無料送迎バスで札幌を出発し、まず虎杖浜温泉でゆっくり温泉に浸かっていたいただきます。その後、水産加工品のお店や工場が軒を連ねる海産物ロードでお買い物や、白老牛レストランでの夕食、そして夜は、アイヌ民族博物館で館内の見学

とにありません。単発でそれぞれの資源を紹介することは簡単ですが、ただ紹介するだけでは、旅行者のみならずが確実に訪れてくれるかどうかはわかりません。アクセスの確保、ルートを組み立て、受入態勢整備をする上で、準備を整え、情報発信、魅力ある商品と価格提示ができれば、「行ってみたい」ということになり

観光のお問い合わせは

■北海道観光連盟 札幌市中央区北3条西7丁目1番地 緑苑ビル2階 TEL (011) 231-0941 FAX 232-5064

●北海道さっぽろ「食と観光」情報館 札幌市北区北6条西4丁目JR札幌駅1階西通り北口 TEL (011) 213-5088 FAX 213-5089

■北海道経済部観光のくにつくり推進局 札幌市中央区北3条西6丁目 道庁8階 TEL (011) 231-4111 (代) FAX 232-4120

会員の購読料は会費に含まれています



▲たきかわ観光大使 坪田 麻里さん (滝川市) 柴田 あゆみさん



▶まいメイドくろ 齊藤 いくみさん (釧路市) 葛西 美由紀さん

ていせい びんごう